

### 3 小中学校等への「科学技術教育支援」に関する合意書

第2回WG会議を平成18年1月に八代高専で開催しました。

当番校の宮川校長から、中学校への科学技術教育支援では高専の方が断然有利なので、このWGで高専全体の動きをリードして、具体的な形になるように進めて行ってほしいと助言がありました。

報告では、都城高専は八代にならって貸出可能な機材のリストと出前可能な授業の分野について冊子にまとめ、それを地域の小中学校に提示して連携授業をする計画を進めています。鹿児島高専では平成17

年3月に地元の隼人町（現在霧島市）との間で連携協力に関する協定書の調印を行い、それに基づき「夏休み出前実験教室」を開催しました。

有明高専では、大牟田市内の中学校理科部会の先生と高専の理科教員の集まりを開き、相互の科学教育の連携が進むようにしました。八代高専ではSPP事業による「わくわく連携理科授業」の実地見学が行われました。

続いて、次のように九州沖縄地区高専での「科学技術教育支援」合意書を決定しました。

- a) WGの名称を「九州沖縄地区高専 科学技術教育支援WG」として活動します。
- b) 目標は、九州沖縄地区高専間の連携した科学技術教育支援体制づくりで、今後3年間でその基盤を作ります。
- c) WG会議を年1回実施し、WG長を選任して、この活動を継続するためのネットワークを維持します。
- d) 各校での支援活動の実績をさらに積み上げ、情報交換を行い、お互いの活動の充実を図ります。
- e) この活動を九州沖縄地区全体に広く紹介していくため、パンフレット作りなどの広報活動に共同で取り組みます。
- f) 科学技術教育支援は、地域貢献を掲げる高専の教職員・学生にとって意義ある活動の場であり、地域社会との結びつきを体験する格好の機会です。各校ではこの活動への協力者が増えていくよう努力します。



図2. 連携理科授業

### 4 九州沖縄地区高専「科学技術教育支援」事業紹介パンフレットの編集と発行

平成18年8月に有明高専で開催された第3回の会議では、「科学技術教育支援」パンフレットの作成について討議しました。その内容は次のようです。

- a) 今年度、本WGの10高専の科学技術教育支援「事業紹介パンフレット」を共同して作成し、九州沖縄地区のすべての小中学校に配布します。内容は、各高専で取り組んでいる、1) 小中学校連携理科授業、2) ことば工作教室、3) 地域イベントでの実験・展示、4)

実験機器製作・貸出、5) 教員研修会の支援などの紹介です。

- b) 「科学技術教育支援」を行うための「実践事例テキスト集」については、来年度中の完成を目指します。

この結果、平成19年4月に12000部のパンフレットができ上り、各県ごとにその県内の高専を通じて配布されています。なお、冊子の表紙デザインにあたっては、若い人の感性を生かすため八代高専の学生に協力してもらいました。

### 5 九州沖縄地区高専「科学技術教育支援」実践事例テキスト集の編集と発行

平成19年8月に久留米高専で第4回のWG会議が開催されました。

報告ではこの年からSPP事業の予算で教育支援を実施する高専が増えました。有明高専では平成19年3月に大牟田市と教育支援の協定を結んで、これにもとづき中学校教員の研修や出前授業、教材の貸出事業を積極的に行っています。熊本電波高専では30週におよぶ長期間の出張授業を行っています。大分高専では、「大分っ子科学マインド育成事業」という県との連携による小中学生向けの理科教室が実施されています。都城高専では出前実験、器具貸出リストにもとづき、近隣の中学校から出前授業の申し込みが来ています。

このように各高専ではこれまでより広く、また深く支援活動が行われています。

会議では次のように合意し、校長会に支援を要請しました。

- a) 今年度は、「科学技術教育支援」事業紹介パンフレットを効果的に配布し、小中学校の理科教育充実に役立てていきます。
- b) 本年度は「科学技術教育支援」の具体的な内容を知ってもらうための「実践事例テキスト集」を制作します。また、パンフレットやテキスト集の配布については、各県の教育委員会との連携をはかることが効果的なので、校長会に各県の教育委員会との関係の強化を要請しました。

現在、各高専で協力して事例テキストの編集作業を行っていて、平成20年3月発行の予定です。



図3. パンフレット表紙